

福祉の未来を拓く 社大福祉フォーラム 2026

第64回日本社会事業大学社会福祉研究大会

《大会テーマ》

灯し、紡ぐソーシャルワーク ～共生社会における福祉リーダーのあり方～

《 日 程 》

2026年6月27日(土)・28日(日)

【1日目】6月27日(土)

開催場所…講堂(対面) 当日録画をオンデマンド配信予定

9:30	●受付開始	9:30
10:00	●開会式 ●プログラム説明	10:00
10:10	●本部企画【基調講演】 「求められる日本の社会福祉の在り方」 講演者 古都 賢一氏 全国社会福祉協議会 副会長	10:10
11:40	●木田賞贈呈式 ●学生研究奨励賞贈呈式	11:40
12:20	休憩	12:20
12:30	●学内学会総会	12:30
12:50	休憩	12:50
13:30	●本部企画【創立80周年記念シンポジウム】 「Social Changeと"福祉リーダーの養成"～日本社会事業大学の使命と未来の展望～ シンポジスト 朝日 雅也氏 埼玉県立大学名誉教授/大学院社会福祉学研究科博士前期課程修了 大山 典宏氏 明治大学公共政策大学院専任教授/大学院福祉マネジメント研究科修了 武長 信亮氏 弁護士・文京社会福祉士会名誉会長/通信教育科精神保健福祉士短期養成課程修了 仁科 雄介氏 一般社団法人ent代表理事/社会福祉学部卒業・大学院社会福祉学研究科博士前期・博士後期課程修了 コーディネーター 木戸 宜子 大学院福祉マネジメント研究科教授	13:30
15:30		15:30
16:00		16:00

同窓会企画(A101)

【2日目】6月28日(日)

開催場所…各教室(対面)

9:30	●受付開始	9:30
10:00	●分科会 1【A201】 ①社会福祉法人の「地域における公益的な取組」にみる協働の構造とモデル化 ②特別支援学校高等部卒業生の職業選択と介護助手就労の可能性 ③ドイツにおけるケア補助職養成の国家資格化とその背景 —連邦統一法による教育課程の標準化とキャリアパスの再構築— ●分科会 2【A202】 ④ヤングケアラーの居場所支援に関する報告 ⑤大学生生活の中の「場」としての学食：学生の充実感との関連の分析 ⑥専門職大学院修了生のピアグループスーパービジョンにおける気づきと気づきを促進する要因の分析	10:00
11:30	休憩	12:00
13:00	●分科会 3【A201】 ⑦難聴者の交友関係、意思疎通手段 ⑧台湾の活動事例にみる、多様な困難を包摂する共生の実践(スタディツアー報告) ⑨当事者の語りから見える小児慢性疾患を抱えた若者の「育ち」の課題 ～『障害者の権利に関する条約』の視点に基づく質的分析～	13:00
14:30		15:00

●自主企画分科会 ①ソーシャルワーク・スーパービジョンを学んだ私たちの「その後」 —5人の実践者が語る、修了後の展開とリフレクション— [A301] ②災害ソーシャルワークスタディツアー報告会(スタディツアー報告) [A302] ③地域共生のための多世代交流による農的活動 [A401] ④地域における子どもの居場所活動 [A402] ⑤卒業生の実践から考える社会課題のリアル [C301] ⑥産業ソーシャルワーク～福祉的アプローチからみる職場メンタルヘルス支援の再考～ [C302] ⑦特別支援教育の現場から学ぶ —特支教員養成課程修了生と在学生の対話—(手話通訳・音声認識字幕あり) [C303]
●自主企画分科会 ⑧スーパーバイザーの実践から探る専門職大学院グループスーパービジョンの特質 [A401] ⑨専門職大学院での学びとその後の実践 [A402] ⑩現場の知を築くために実践課題研究、その後 [C302] ⑪初めての実習への不安を減らそう！～車椅子の使い方をマスターしよう！～ 【介護実習棟 2F】

※ 本部企画 分科会 自主企画分科会

1日目 6月27日(土)

開会式

10:00～10:10【講堂】

(手話通訳あり)

司会：新藤 健太（社会福祉学部准教授）

- ・開会のあいさつ 日本社会事業大学社会福祉学会 会長 横山 彰
- ・プログラム説明

基調講演

10:10～11:40【講堂】

(手話通訳あり)

「求められる日本の社会福祉の在り方」

講演者 ふるいち けんいち 古都 賢一 氏
全国社会福祉協議会 副会長



<プロフィール>

昭和58年3月 東京大学法学部卒業。

同年4月厚生省（現厚生労働省）に入省し、環境庁（現環境省）、北九州市・名古屋大学等でも勤務する。

平成17年から厚生労働省老健局振興課長、社会・援護局保護課長、年金局総務課長、社会・援護局総務課長、大臣官房審議官（賃金、社会・援護・人道調査担当）を経て、平成27年4月より独立行政法人国立病院機構副理事長に就任。令和元年6月に社会福祉法人全国社会福祉協議会副会長に就任し、現在に至る。

そのほか、日本社会事業大学専門職大学院非常勤講師、早稲田大学非常勤講師、日本福祉大学客員教授、兵庫県立大学客員教授を務める。

木田賞・学生研究奨励賞 贈呈式

11:40～12:20【講堂】

(手話通訳あり)

司会：新藤 健太（社会福祉学部准教授）

【木田賞】

(実践賞)

こだま かずゆき 小滝 一幸 氏（社会福祉法人 東京聖労院 常務理事・特別養護老人ホーム清雅苑施設長 / 社会福祉学部 社会事業学科 学部26期 1986年3月卒業）

【学生研究奨励賞】

<small>かとう ももか</small> 加藤 桃果	さん	(2026年3月)	社会福祉学部	福祉援助学科	卒業
<small>しもとまい ふうか</small> 下斗米 風花	さん	(2026年3月)	社会福祉学部	福祉援助学科	卒業
<small>てんま うらん</small> 天満 宇蘭	さん	(2026年3月)	社会福祉学部	福祉援助学科	卒業
<small>おおいし まひろ</small> 大石 真寛	さん	(2026年3月)	社会福祉学部	福祉援助学科	卒業
<small>いしかわ あいり</small> 石川 愛琳	さん	(2026年3月)	社会福祉学部	福祉援助学科	卒業
<small>わたなべ りんか</small> 渡邊 鈴華	さん	(2026年3月)	社会福祉学部	福祉援助学科	卒業
<small>はせべ ゆみ</small> 長谷部 裕美	さん	(大学院博士後期課程/2026年3月大学院博士前期課程 修了/2018年3月)	社会福祉学部	福祉援助学科	卒業
<small>おがわ のりさ</small> 小川 則之	さん	(2026年3月)	大学院福祉マネジメント研究科		修了
<small>やまぐち ようい</small> 山口 洋平	さん	(2026年3月)	大学院福祉マネジメント研究科		修了

学内学会総会

12:30～12:50【講堂】

司会：新藤 健太（社会福祉学部准教授）

（手話通訳あり）

創立80周年記念シンポジウム

13:30～15:30【講堂】

（手話通訳あり）



「Social Change と “福祉リーダーの養成”」
～日本社会事業大学の使命と未来の展望～

シンポジスト

- | | | | |
|------|------|---|---------------------------------------------------|
| あさひ | まさや | 氏 | 埼玉県立大学名誉教授 / 大学院社会福祉学研究科博士前期課程修了 |
| 朝日 | 雅也 | 氏 | |
| おおやま | のりひろ | 氏 | 明治大学公共政策大学院専任教授 / 大学院福祉マネジメント研究科修了 |
| 大山 | 典宏 | 氏 | |
| たけなが | のぶあき | 氏 | 弁護士・文京社会福祉士会名誉会長 / 通信教育科精神保健福祉士短期養成課程修了 |
| 武長 | 信亮 | 氏 | |
| にしな | ゆうすけ | 氏 | 一般社団法人ent代表理事 / 社会福祉学部卒業・大学院社会福祉学研究科博士前期・博士後期課程修了 |
| 仁科 | 雄介 | 氏 | |

コーディネーター 木戸 宜子 大学院福祉マネジメント研究科教授



日本社会事業大学 同窓会

同窓会企画

11:30～16:00【A101】

社大生あつまれ！

あなたのキャリアプラン実現のための「福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会」

社大生のみなさんが、これからどのような福祉分野の職場で仕事をしていきたいのか、、、
キャリアプラン作成の手掛かりにしてください。「就活」や「相談援助実習先」の選択にもきっと役立ちます。
この交流会は、日本社会事業大学×社会福祉学会とのコラボ企画です。

参加予定団体

（社）東京聖学院、（社）まりも会、（社）東京都手をつなぐ育成会、（社）滝乃川学園、（社）大田幸陽会、日本赤十字社、
（社）ル・プリ、（社）白十字会、（社）聖隷福祉事業団、（社）武蔵野、（社）常盤会、（社）旭児童ホーム、（社）睦月会、
（社）唐池学園、ピーサイドユウ（株）

【北海道支部】（社）栄和会

【茨城県支部】（社）茨城県社会福祉協議会

【栃木県支部】（社）すぎのこ会、（社）同愛会、（社）パステル

【千葉県支部】（社）オリーブの樹、（株）ドットライン



コーディネーター：ヴィラーク ヴィクトル（社会福祉学部准教授）

社会福祉法人の「地域における公益的な取組」にみる協働の構造とモデル化

小柳 達也（尚美学園大学准教授 / 専門職大学院5期2009年修了）

本研究は、社会福祉法人が実施する「地域における公益的な取組」のうち、集いの場の提供（居場所提供サービス）に着目し、当該実践に従事する従事者の語りを収集・分析することを通じて、地域住民との協働に関わる経験や実践過程を整理し、その構造的特徴を明らかにすることを目的とする。さらに、得られた知見を基に協働の理論的整理とモデル化を試み、地域福祉実践における支援構造の理解を深化させることを目指す。

特別支援学校高等部卒業生の職業選択と介護助手就労の可能性

中嶋 裕子（福山平成大学教授 / 通信教育科2004年修了）

障害者の就労者数および就労可能な職種は年々拡大している。一方で、慢性的な人手不足を抱える業界も依然として存在しており、その代表例として福祉職・介護分野が挙げられる。このような状況を背景として、近年では介護現場におけるタスクシェアおよびタスクシフティングの推進、ならびに介護助手等の確保・活用といった方策が注目されている。

本論では、A特別支援学校高等学部におけるキャリア教育および介護助手輩出の取り組みに着目し、介護業界と特別支援学校との人材マッチングの在り方について検討することを目的とする。

ドイツにおけるケア補助職養成の国家資格化とその背景

ー連邦統一法による教育課程の標準化とキャリアパスの再構築ー

高木 剛（静岡県立大学短期大学部教授 / 大学博士前期課程14期2004年修了）

ドイツでは、2020年の「ケア職業法（PfIBG）」施行により、介護・看護分野のジェネラリストとしてケア専門職（連邦国家資格）が創設された。他方で、ケア補助職については各州の州法に基づき、名称や教育期間（1年～2年）などに格差があり、両者の業務範囲やキャリアパスの不透明さを招いていた。ケア補助職の連邦国家資格化により、これらがどのように転換されるのか、法的枠組みを中心に概観する。

コーディネーター：齋川 信幸（社会福祉学部教授）

ヤングケアラーの居場所支援に関する報告

中西 章子（専門職大学院16期2020年修了）

各所で、子どもや若者の居場所支援や個別の支援がなされている。福祉サービスのみではなく、多様な形態の居場所もあり、特に、ヤングケアラー支援にとってどのような支援が役に立ち、また、支援者がどのような関わりが必要となるのかについて探索したい。実際にヤングケアラー支援に現場で携わっている人々も交えての話し合いが出来るとありがたい。

大学生活の中の「場」としての学食：学生の充実感との関連の分析

保坂 真由美（大学院博士前期課程2年 / 社会福祉学部65期2025年卒業）

金親 萌（大学院博士前期課程2年 / 社会福祉学部65期2025年卒業）

高橋 祐香里（大学院博士前期課程2年）

LIU SIHONG（大学院博士前期課程2年）

本研究では福祉系大学であるA大学をフィールドとし、学食を心理的・社会的な機能を有する「場」として捉えて検討を行う。本研究の目的は、大学生の学食利用の実態と大学生活充実度との関連を量的調査によって明らかにすることである。特に、A大学における具体的な利用状況と学生の主観的な充実感との繋がりを解明することは、単なる実態把握にとどまらず、A大学における大学生活の質向上および環境整備に貢献するものである。

専門職大学院修了生のピアグループスーパービジョンにおける気づきと気づきを促進する要因の分析

青木 雄子（玉川大学教育学部乳幼児発達学科 / 専門職大学院19期2024年修了）

社会福祉専門職大学院修了後も、スーパービジョンを学び続ける必要性を感じた有志が、ピアグループスーパービジョン（PGSV）の自主学習会を実施している。定期的に開催し、事例検討と進行の振り返りを重ねるなかで、事例提供者からは深い気づきが得られたとの声も聞かれる。本報告では、PGSVにおいてどのような気づきが得られ、それがどのような要因によって促進されるのかを明らかにし、PGSVの学びの場としての有用性を検討するとともに、社会福祉援助職の成長に果たす意義を考察する。

《自主企画分科会》 1

10:00～12:00 [A301]

ソーシャルワーク・スーパービジョンを学んだ私たちの「その後」

— 5人の実践者が語る、修了後の展開とリフレクション —

- ＜報告者＞ 増田 剛士 (日本福祉教育専門学校専任講師 / 専門職大学院 19期 2024年修了)
 佐藤 知美 (ケアプランイーライフ管理者 / 専門職大学院 13期 2018年修了)
 宮河 恭介 (介護老人保健施設練馬ゆめの木支援相談員 / 専門職大学院 14期 2019年修了)
 半田 水穂 (JCHO 埼玉メディカルセンター医療ソーシャルワーカー / 専門職大学院 15期 2020年修了)
 苫米地 絵理香 (さいたま市桜区南部圏域地域包括支援センターザイタック主任介護支援専門員 / 専門職大学院 17期 2022年修了)

＜助言者＞ 木戸 宜子 (専門職大学院教授)

発表者は専門職大学院在学中に木戸宜子先生のもとでソーシャル・ワークスーパービジョンを学び直し、その学びを各自の実践現場へ持ち帰り活用してきました。異動・昇進・転職などで立場や環境が変わる中、修了後から現在に至るまで、各自がどのようにスーパービジョンを展開しているか報告します。また、現在直面している課題を共有し、木戸先生および参加者の皆様からの助言や意見を受けることで、実践の改善と今後の展望を探りたいと考えています。

《自主企画分科会》 2 (スタディツアー報告)

10:00～12:00 [A302]

災害ソーシャルワークスタディツアー報告会

- | | | |
|-------------------------------------------|-------------------|--|
| 山本 蒔愛子 (大学院博士前期課程1年 / 社会福祉学部 66期 2026年卒業) | | |
| 亀田 貴典 (専門職大学院) | 別府 政行 (専門職大学院) | |
| 大浦 理子 (社会福祉学部 4年) | 池田 奈央 (社会福祉学部 4年) | |
| 神林 美音 (社会福祉学部 4年) | 鷹取 柚 (社会福祉学部 3年) | |
| 大橋 未遥 (社会福祉学部 3年) | 小杉 鷹矢 (社会福祉学部 3年) | |
| 岩井 優志 (社会福祉学部 3年) | 菅原 姫和 (社会福祉学部 3年) | |
| 矢嶋 杏月 (社会福祉学部 3年) | 法橋 英子 (社会福祉学部 2年) | |
| 齋藤 可南子 (社会福祉学部 2年) | 柴 いろは (社会福祉学部 2年) | |
| 関 朔太郎 (社会福祉学部 2年) | 鈴木 湊 (社会福祉学部 2年) | |

菱沼 幹男 (社会福祉学部教授)

2026年3月19日から21日に女川町、石巻市、気仙沼市でのスタディツアーに参加した。1日目は女川町地域福祉センターを訪問し、2日目はまねきショップ、石巻市ささえあいセンター、気仙沼市東日本大震災遺構・記念館、気仙沼まち・ひと・しごと交流プラザを訪問し、3日目は面瀬学童保育センター、鮎立児童館での子ども会活動を行った。

この分科会では、それぞれのプログラムでの学びと災害ソーシャルワークについての考察を報告する。

《自主企画分科会》 3

10:00～12:00 [A401]

地域共生のための多世代交流による農的活動

永嶋 昌樹 (社会福祉学部准教授 / 学長室 多心型福祉連携センター)

農福連携や集団で行う園芸等の農的活動は、世代・年齢・国籍・性別・職業等の異なる属性の人びとが参加し、ともに活動することによって自然にお互いの理解が深まり、つながっていく取組みとして近年徐々に注目されつつある。

社大と連携して活動している団体、社大生がこれまでに参加した活動等について紹介する。

活動報告・発表を予定している団体等

【学内サークル】

- ・多心型福祉連携センター (農林水産省交付金事業)
- ・多世代交流同好会、永嶋ゼミ
- ・ヤギ部
- ・タネとヒト

【外部団体】

- ・早稲田大学 農楽塾
- ・成蹊大学 お芋掘りサークル
- ・NPO 法人きよせらボ
- ・わくわく都民農園小金井 等



のうぶくキャラクター「シャビー」



社大ヤギ「おもち」

《自主企画分科会》 4

10:00～12:00 [A402]

地域における子どもの居場所活動

内田 宏明 (社会福祉学部教授)

荒川 倅多 (社会福祉学部4年)

内田ゼミで取り組んできた清瀬市内の地域における居場所活動について報告する。

清瀬市内3地域で活動しており、野塩グループは野塩1丁目保育における卒園児の放課後支援、梅園グループはゆいゆいにおける不登校の居場所支援、旭が丘グループは 清明小学校における学習支援活動について報告する。

《自主企画分科会》 5

10:00～12:00 [C301]

卒業生の実践から考える社会課題のリアル**【話題提供】**

坂本 美夕貴 (社会福祉法人めぐはうす / 社会福祉学部54期2014年卒業)

日下 公佑 (横浜市役所 / 本学社会福祉学会評議員 / 社会福祉学部57期2017年卒業)

松岡 健太 (医療法人社団焔 / 本学社会福祉学会評議員 / 社会福祉学部57期2017年卒業)

【コーディネーター】

新藤 健太 (社会福祉学部准教授)

本企画では、本学卒業生による現場での実践報告を通して、現代社会における多様な社会課題の実態を共有する。支援の現場で直面している課題や工夫、葛藤をもとに、制度や支援のあり方について多角的に検討する。また、参加者との対話を通して、「何が課題なのか」「どのような支援が求められるのか」を改めて問い直す機会とする。

《自主企画分科会》 6

10:00～12:00 [C302]

産業ソーシャルワーク ～福祉的アプローチからみる職場メンタルヘルス支援の再考～**【話題提供】**

大槇 重光 (専門職大学院 兼任講師(非常勤) / 研究科45期1991年卒業)

田村 三太 (MHC リサーチ&コンサルティング代表理事 / 専門職大学院20期2024年修了)

湯沢 由美 (東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻 / YU 精神保健福祉士事務所)

【運営補助】

竹野 鴻人 (社会福祉学部3年)

【助言者】

鶴岡 浩樹 (専門職大学院研究科長・教授・産業医)

今年度も「職場のメンタルヘルス」「産業ソーシャルワーク」をキーワードに分科会を開催。今回は昨年度まで東京大学先端科学技術研究センター社会包摂システム分野で学術専門職員をされていた湯沢先生に「先端学際工学×精神保健福祉(ソーシャルワーク)×職場のメンタルヘルス」をテーマに登壇して頂きます。本分野に関心をお持ちの皆さまが集い、意見交換と人的交流の場となれば幸いです。

《自主企画分科会》 7

10:00～12:00 [C303]

特別支援教育の現場から学ぶ - 特支教員養成課程修了生と在学生の対話 - (手話通訳・音声認識字幕あり)

二神 麗子 (社会学部学部講師)

佐藤 晃大 (社会福祉学部62期2022年卒業)

藤井 太陽 (社会福祉学部64期2024年卒業)

鵜飼 七虹 (社会福祉学部65期2025年卒業)

本企画は、本学教職コース(特別支援教員養成)の修了生のうち、現在学校現場等で働いている方々を招き、在學生との意見交換および交流を行う自主企画分科会である。修了生が特別支援教育の実践現場で得た経験や知見を在學生と共有し、学びの往還と学習コミュニティの形成を目的とする。参加者が将来のキャリアを展望する機会としても位置づける。

《分科会》 3

13:00 ~ 14:30 [A201]

コーディネーター：有村 大士（社会福祉学部教授）

難聴者の交友関係、意思疎通手段

高田 乃咲（社会福祉学部3年）

聴覚障害者として、これまで習得した意思疎通手段や通った学校、人間関係や障害受容の変化について述べる。

また、意思疎通手段が増えたことにより、コミュニティ参加や職業選択の幅が広がったことにも触れる。

①保育園	②小学校	③中学校	④高校生（高等部）
→きこえの教室と並行して通う	→難聴学級と普通学級を行き来	→難聴学級と普通学級を行き来	→ろう学校
→口話法のみ	→難聴学級内では授業科目は扱わず	→難聴学級内で英語・国語・数学を学ぶ	→全ての授業が少人数
	→口話法のみ	→口話法のみ	→口話・日本語対応手話で会話
	→「情報保障」について自立活動で学ぶ	→将来の進学・就業を見越した自立活動	→大学進学・就業のための自立活動

台湾の活動事例にみる、多様な困難を包摂する共生の実践（スタディツアー報告）

大橋 未遥（社会福祉学部3年）

山縣 美智子（社会福祉学部2年）

中国語教員の橋本先生主催による2026年度台湾スタディツアーの報告を行う。本年度も萬華地区を中心に、貧困、性的マイノリティ、動物保護など多岐にわたる支援団体を訪問した。公的機関や複数の非営利団体が萬華という場を共にして連携しており、困難がある場所に、必要な支援が自ずと集まり繋がっていく光景を目の当たりにした。

一方で、2年連続で訪問した鯉舂公園では、都市再開発による公園の閉鎖とホームレスの強制排除が進んでいた。これは地域の高齢者の憩いの場をも奪うコミュニティの破壊でもあるという。この一年で加速した排除の動きと、それに対抗し支え合う支援の現場があった。本発表では、私たちが台湾で見たリアルな共生の姿を報告する。

当事者の語りから見える小児慢性疾患を抱えた若者の「育ち」の課題～『障害者の権利に関する条約』の視点に基づく質的分析～

山本 時愛子（大学院博士前期課程1年 / 社会福祉学部66期2026年卒業）

現代において、医療技術が進歩したことによって疾患を抱える子どもでも成人を迎えられるようになってきたが、小児科では成人を迎えた患者の対応が困難であることが現実だ。そうした背景から近年、「移行期医療支援」、「成人移行支援」の必要性が唱えられるようになった。

本研究では、疾患を抱えた当事者が小児から成人へと移行行くなかで、どのような課題を抱え、またそれをどう乗り越えてきたか、当事者にインタビューを行った。これを障害者の権利に関する条約及び一般的意見（General comments）における視点をうけながら、整理し、まとめた。

本発表は2025年度卒業研究の内容を用い、一部追記及び修正を加えたものである。

《自主企画分科会》 8

13:00 ~ 15:00 [A401]

スーパーバイザーの実践から探る専門職大学院グループスーパービジョンの特質

木戸 宜子（専門職大学院教授）

須江 泰子（専門職大学院准教授）

北川 進（専門職大学院准教授）

曾根 直樹（社会事業研究所客員教授）

本学では教員3名が認定社会福祉士制度におけるスーパーバイザーとして登録し、グループスーパービジョンを実施している。各バイザーが担う役割、場づくりにおける工夫や配慮点についてディスカッションを行い、固有の特徴や共通項、同一大学院に在籍し日常的に関係性を築いてきたバイザー同士が集うことでの、学びの深化や相互支援を促進している可能性について探索する。本企画ではこれらの視点を通じて、専門職大学院におけるグループスーパービジョンが、実践知の共有と専門職育成にどのような独自の価値を持つのか、その特質を各バイザーの実践から探るものである。

《自主企画分科会》 9

13:00 ~ 15:00 [A402]

専門職大学院での学びとその後の実践

丸山 ひろみ（上越相談支援ネットワーク / 専門職大学院20期2024年修了）

上田 大介（いわてリハビリテーションセンター / 専門職大学院19期2023年修了）

大橋 朋子（世田谷区深沢あんしんすこやかセンター / 専門職大学院19期2023年修了）

浜野 美穂（東京都教育庁ユースソーシャルワーカー / 専門職大学院19期2024年修了）

八重樫 譲（綾瀬市障がい者児相談センター / 専門職大学院19期2024年修了）

平田 麻都香（相模原ロイヤルケアセンター / 専門職大学院20期2024年修了）

阿部 裕美子（東名厚木病院居宅介護支援センター / 専門職大学院20期2025年修了）

出口 恵子（山梨県中央児童相談所 / 専門職大学院20期2025年修了）

専門職大学院での学びと出会いは、その後の実践において、大きな意味を持つことになりました。実践研究報告をまとめたことはゴールではなく、スタートでした。修了後もそれぞれの現場で、悩み考え試行錯誤しながら歩み続けています。

今回は、異なる現場で実践を続ける木戸ゼミ19期生と20期生有志が、専門職大学院で学んだことと修了後の取り組みについて、ささやかな報告をしたいと思います。また合わせて、2025年度から始めた自主ゼミについて報告します。会場にお越しくださる皆さんとも新たなつながりが生まれることを期待しています。

現場の知を築くために 実践課題研究、その後

- ＜報告者＞ 伊藤 佳世子 (専門職大学院 15期 2020年修了)
伊藤 晋 (専門職大学院 16期 2021年修了)
照屋 明子 (専門職大学院 18期 2022年修了)
中居 裕樹 (専門職大学院 20期 2025年修了)
- ＜助言者＞ 鶴岡 浩樹 (専門職大学院研究科長・教授)
- ＜企画・進行＞ 増田 剛士 (専門職大学院 19期 2024年修了)
猿渡 英代子 (専門職大学院 20期 2024年修了)
田村 三太 (専門職大学院 20期 2024年修了)
林 恵子 (専門職大学院 22期)

前半報告者より(15分)×4名、後半1時間グループディスカッション。クリニカルジャズシートを利用しながら各発表者からお話をいただく。専門職大学院でどのような実践課題研究をして、その後どうだったかを振り返る。

初めての实習への不安を減らそう！～車椅子の使い方をマスターしよう！～

- 千葉 琴心 (社会福祉学部 2年)
高橋 風佳 (社会福祉学部 2年)
長谷部 裕美 (大学院博士後期課程 / 大学院博士前期課程 36期 2026年修了 / 社会福祉学部 58期 2018年卒業)
五明 響 (大学院博士前期課程 36期 2026年修了 / 社会福祉学部 64期 2024年卒業)

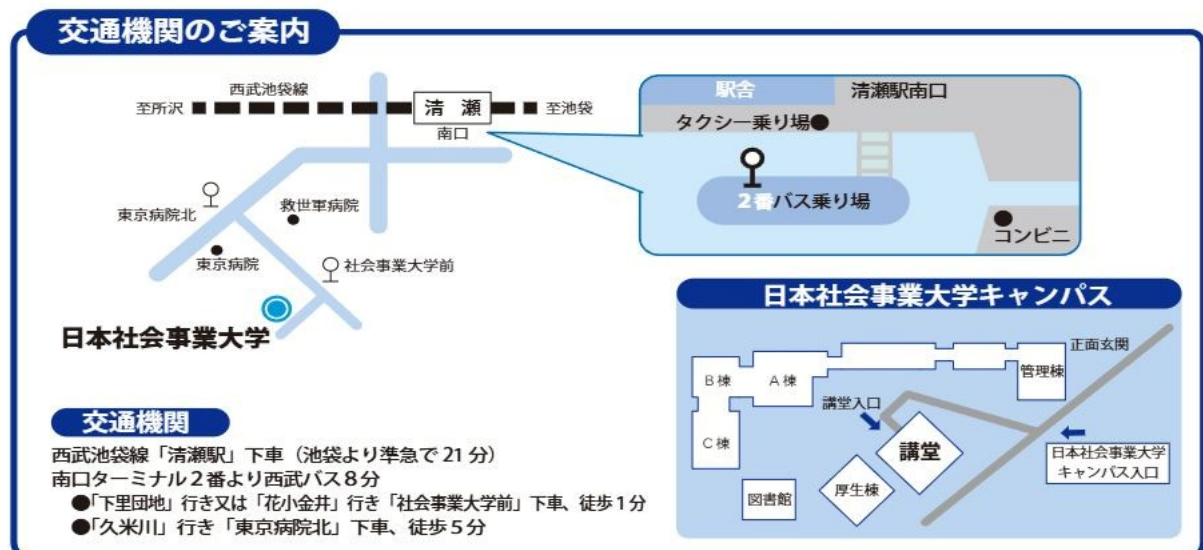
初めての実習に安心して取り組めるよう、車椅子に「乗る・操作する」を体験できる企画です。実際の車椅子操作を体感することで、利用者の視点を理解し、安全な移動のための技術向上を目指します。施設でも多くの方が使用している車椅子の基本操作や段差の越え方などを学ぶことで、利用者も実習生も安心して移動できることを目指しましょう！

また、時間があれば、言語以外の方法で利用者に関わるコミュニケーション方法について一緒に体験してみましょう。ぜひお気軽にご参加ください。皆さんの参加をお待ちしております！！

ご案内

- 参加資格：どなたでも参加できます。必ず会場で受付をしてください。
- 参加費等：無料
- 手話通訳：1日目の開会式、基調講演、80周年記念シンポジウム、学内学会総会には手話通訳が付きます。
- 昼食等：6月27日・28日 11:00～14:00は、食堂が利用できます。
- 駐車スペースがありませんので、ご来場には公共交通機関をご利用ください。
※内容・スケジュールは変更になる場合がございます。ご了承ください。
- 障がい等のため、特別な配慮が必要な方は、あらかじめお申し出ください。

会場：本学清瀬キャンパス 〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30



■主催 学校法人日本社会事業大学 / 日本社会事業大学社会福祉学会

■お問い合わせ 〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30

学校法人日本社会事業大学 社会事業研究所（社会福祉学会事務局）

Tel 042-496-3050 Email swri@jcs.w.ac.jp